

## 横浜市商店街の実情と行政の役割について

2010年11月29日 10:00～

横浜商科大学 商学部教授 佐々 徹

### 1. 商店街が衰退した要因

#### (1) 社会の変化

##### ■小売業の業態の多様化

◇以前は「商店街」と「デパート」。それが・・・。

1950年代 スーパー（GMS）の登場。

1970年代 コンビニエンス・ストアの登場。

1980年代 ディスカウントストアの登場。

1990年代 ホールセールクラブの登場。

##### ■車社会の到来による購買行動の変化

◇自家用車で買い物へ（「一括買い」の普及）。しかし、商店街には駐車場がない。

◇郊外型ショッピングセンターの乱立。

#### (2) 商店街の変化

##### ■「職住分離」の進行（⇒「通いの店主」の増加）

◇かつての商店街の特徴は「職住一体」。

◇「通いの店主」が増加して、「商店街らしさ」がなくなる。

◇「職住一体」が残る商店街は、今でも足腰のしっかりしているところが多い。

##### ■チェーン店の増加

◇地元への愛着が薄い。

◇本部の意向に左右される（何事も本部の許可が必要）。

◇しかし、近年では地域密着や地元への貢献への理解が高いチェーン店も見られる。

##### ■商店街活動の停滞

◇商店街は「物品やサービスの購入の場」以外の機能（役割）も果たしている。⇒それが、おしなべて停滞。⇒「商店街らしさ」を失う。

◇活動費不足（売上や利益率の低下→非加盟店の増加、チェーン店の増加⇒組合費収入の減少）。

◇活動する人手の不足（非加盟店、チェーン店の増加、商店経営者の高齢化）。

#### (3) 商店の変化

##### ■商店経営者の高齢化

◇「商売の活力（勢い）」の低下。新たなニーズへの対応ができない。

##### ■後継者不足

◇後継者は「高学歴」、「サラリーマン」。

◇後継者難は先代経営者の責任。⇒「先代の背中が明るい」、「後継者育成に計画性がある」ことが後継者の育つ必要条件。

## 2. 商店街再生の意義

### (1) 商店街が果たしてきた役割の維持

- 物品やサービスの購入の場（日常の買い物の場）としての役割
- 地域の文化を育む役割
- 街の安全を守る役割
- 地域活動の「実働部隊」の役割

### (2) 「商店街の商売」の魅力

- 商店街はバリア・フリー（⇒「ヨコのデパート」）
- 売る人、作る人の顔がしっかり見える商売
- 個人商店（生業）のよさが集約された商売
  - ◇「限定生産」は当たり前。⇒厳選された素材が結構使われている。
  - ◇実は、安全・安心な商品⇒手づくり。家庭と同じづくり方。

### (3) 商店街や既存商業集積地の必要性に関する諸見解

- 全国展開型の大規模小売店に依存しない地域商業をつくる
  - ◇全国展開型の大規模小売店の進出→地域に密着した商店・商店街の衰退→大規模店に依存した状態→大規模店の撤退→地域商業の空洞化。
- 地域で生活する人びとの消費活動における選択肢を幅広くする
  - ◇真に豊かな社会＝選択肢が豊富な社会。
  - ◇さまざまな消費活動におけるニーズに応える→多様な店舗があり、地域の生活者に幅広い選択肢を提供する→真に豊かな地域社会をつくるための基盤。
- 地域社会の「お茶の間」としての機能を維持する
  - ◇商店街は、そもそも地域の中で自ずと人びとの集まる場所に形成されている。＝家で例えれば「お茶の間」にあたるエリア。
  - ◇地域社会におけるコミュニケーションの場、同じ地域で生活する人びとが交流を深める場となっていることにも注目しなければならない。→そのような機能を、今後も果たし続けていけるよう再生していくことが重要。
- 「持続可能な社会」を意識し、既存の商業資産の活用を優先して考える
  - ◇新たな商業施設の開発は、自然環境の破壊や交通渋滞などの社会問題を引き起こす。
  - ◇商店街は、これまでの長い歴史の中でさまざまな投資が行われ、インフラの整備が進んでいる。また、地域の人びとの営みの中から生み出された文化的資産も蓄積されている。
  - ◇第一に既存の地域商業資産の有効活用や新たな活用のしかたを考え、それでは不足があるときに新たな商業施設の開発を進めるという姿勢が必要。

### 3. 商店街再生を推進する際の留意点

#### (1) 商店街組織の特性の把握

		メンバーの統制に関するシステム	
		強制的統制手段を有するシステム	メンバーの自発性に依存するシステム
メンバーの流動性	高い	① ■ベンチャー企業組織 ■コラボレーション型生産システム	③ ■異業種交流グループ ■市民活動グループ
	低い	② ■従来の日本型大企業組織 ■系列	④ ■商店街組織

- ◇「強制的統制手段を有するシステム」：当該組織の理念や方針などに従わないメンバーに対して処罰をしたり、彼を排除する手段が制度化された（もしくは、そうした手段がとられることをメンバー全員に周知させた）システム。
- ◇「メンバーの自発性に依存するシステム」：制度化された（もしくは周知された）処罰・排除の手段を持たず、メンバーの自発的貢献に依拠するシステム。
- ◇商店街組織は、メンバーの統制、もしくはメンバー間の利害対立の調整が最も困難なタイプの組織。メンバー全員の間で共通の認識や使命感を醸成することによって各自の意志に基づいた協力を引き出すよりほかに、組織の統一性を確保・維持できない。

#### (2) 自活志向型経営者の発掘

	自営志向型	自活志向型
社業に対する経営者の捉え方	「アウア（私たちの）ビジネス」	「マイ（私の）ビジネス」
利益に対する経営者の考え方	利益の確保→生計の維持	夢の実現→利益の確保
貢献の対象	家族、会社（店）	社会・地域
製品・サービスの開発	分析先行型ニーズ志向	行動先行型ニーズ志向
経営文化	保守的、惰性的、刹那的	エネルギー、チャレンジング
後継者育成	後継者がいない（もしくは育てない）ことが多い	後継者が育ちやすい土壌がある

(注)：「自活」とは、一般的には「他からの援助をうけず、自分の力で生活すること」(『広辞苑』)という意味であるが、ここでは「社会や地域のなかで自分を十分に活かして生きていくこと」と定義している。

- ◇“追い風”の時代から“逆風”の時代へ⇒自力で目標を見つけ、それにたどりつくことが重要  
⇒“追い風”がなければ会社や店を成長させられない自営志向型経営者、逆風のなかで着実な前進を会社や店にもたらす自活志向型経営者。
- ◇経営者の「自活志向」は会社や店が輝きつづけるエネルギー源⇒輝かない会社や店は消費者（顧客）の忘却のなかにたへ。

#### (3) 外部の協力者とのネットワークづくり

- ◇商店街再生には、「よそ者」、「若者」、「バカ者」が重要。
- ◇第一に、消費者のニーズに応えることができ、集客力のある店をつくる必要がある。→商店主（後継者）は自分の店の経営に追われる。→外部の協力者とのネットワークを巧みに活用した商店街再生を考えなければならない。

## 4. 後継世代による商店街再生への取り組み：横浜市の事例

### (1) 後継世代が商店街組織の中に「できる人（やれる人）ネットワーク」をつくって商店街再生に取り組んでいる事例（⇒商店街組織が有する特性の克服）

#### ■六角橋商店街

- ◇空き店舗率が20パーセントの状態からのスタート。
- ◇「イベントは街を死なせないためにやるもの。生きている街であれば、空き店舗ができて、そこに入りたいという人がすぐに現れる」という考え方で、「楽しければ何でもあり」のイベントづくり。⇒どっきり闇市、商店街プロレス・イベント、商店街内結婚式で広く注目を集める。
- ◇店舗面積5坪という小さい店舗が多いことを活かし、「とんがった店」や実験的な店舗を積極的に誘致。⇒「横浜の下北沢」をめざす戦略。
- ◇近くにある神奈川大学に自ら乗り込み、学生によるイベント・サークルと連携。大学事務局とも緊密な関係を構築。それをイベントの企画・運営をはじめとする街の活性化事業に活用している。
- ◇そうした努力の結果、現在では空き店舗がほぼゼロになっている。

### (2) 行政が自活志向型の後継者を発掘するネットワークをつくり、商店街再生に働きかけた事例

#### ■みどり区若手経営塾

- ◇緑区地域振興課が緑区商店街連合会と連携し、区内商店街の後継者や若手経営者による異業種交流グループを立ち上げ。⇒現在はメンバーの自立的運営に移行し、区役所は側面からのサポートに回っている。
- ◇店舗経営に直接役立つ課題についての研究会、区内商店街どうしの情報交換、交流、連携の推進、メンバー間でのコラボレーションによる商品および地域ブランド開発、地域資産でもある「ズーラシア」（よこはま動物園）への支援および連携事業の推進、商店街や商店のよさを発信するための事業「商店街大学」の企画・運営、区内の市民活動団体と連携した街づくり事業などに取り組んでいる。

### (3) 後継世代が自ら市内の商店街に埋もれた自活志向型の後継者を発掘してネットワーク化し、商店街再生のための活動を展開している事例

#### ■商店街ハナノアナ

- ◇「商人の発想で、肩肘張らない楽しいまちづくりを提案する」ことを目的としている。なお、団体の名称である「ハナノアナ（鼻の穴）」には、「楽しいことやイイことを嗅ぎつけて、もっと面白くする」という意味が込められている。
- ◇メンバーの中には、商連かながわ（旧・神奈川県商店街連合会）の商店街支援担当者や大学教員も含まれている。
- ◇また、活動の基本的な方向性としては、上記の「楽しいまちづくりの提案」以外にも以下のようなことが掲げられている。
  - ・商店街が地域住民の快適な暮らしを支えるコミュニティの軸になり、安全や楽しさなど、その街で生活する価値を感じてもらえる活動をしていく。
  - ・商店街が本来もっている資源やネットワークを活かして、商店街だけでなく地域店舗が抱えている課題を解決していく。
- ◇そして、①地域イベントとのタイアップ事業、②商店街や商店に対するコンサルティング事業、③広告代理事業、④イベントの企画・運営事業、⑤企業との交流プランニング事業、⑥行政との連絡、を事業の柱としている。
- ◇これまでに実際に取り組んできた事業は、次頁の表のとおりである。

商店街や店のPR事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「横浜開港祭」などの地域イベントに参加して商店街やその中の商店の素晴らしさ、面白さをアピールする活動を展開し、地域の生活者に対して商店街への回帰を啓発する。</li> <li>●ラジオDJとしても活躍するメンバーがおり、彼の担当する番組を通じて商店街のよい商品や面白い商店経営者をPRする。</li> <li>●ハナノアナが自ら管理・運営するホームページを通じて、商店街の活動や面白い商店の紹介をする。</li> </ul>
地域店舗の特典つきクレジットカード事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●クレジットカード会社とタイアップして実施中。市内商店街に店舗を構える商店から協力店を募り、協力店にはカード会員がこのカードを提示したときのオリジナル・サービスを用意してもらう。そして、そのサービスが紹介されたリーフレットを作成・配布し、カード自体や協力店のPRを行う。</li> </ul>
「福使イズム」事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市内商店街に店舗を構える商店に協力を求め、あらかじめその店が選んだ自店の名物商品が売れるごとに売上の一定割合を募金してもらう（選ぶ商品、および売上の何パーセントを募金するかについては、各協力店が決定する）。そして、その募金を集め、地域社会の福祉活動に寄付をする。また、募金対象となっている各協力店の名物商品を、ハナノアナが自らのホームページや上記のラジオ番組を通じて強かにPRする。</li> </ul>
大学での講義プログラムの開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>●メンバーの経験と知恵を集結させ、これまでの大学にはなかったような実践性の高い講義プログラムを開発し、提供する。それを通じて、次の時代を担う人びと（学生）に対して商店街で買い物することや生業を営むことの面白さ・楽しさを啓発する。</li> <li>●2006年度より、横浜商科大学で開講。</li> </ul>
黒船物見遊山・横浜あきないまちウォークラリーの企画・開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>●横浜市内の商店街をチェック・ポイントとするウォークラリー。</li> <li>●2006年、戸塚から中区の開港広場までの1コースでパイロット的に実施。翌年からは4コース開設となり、2008年10月26日に開催された第3回では市内15区がルートに入っている。なお、2009年は8コースとなり、9月6日に開催。</li> <li>●年に1回、横浜市民が大挙して商店街の中を歩くくみをつくるのが目的。その機会を各商店街がPRに活用することを意図している。</li> </ul>

◇商店街ハナノアナの主力メンバーが中心となって2008年12月に「神奈川を愛する会」を立ち上げ、活動領域や後継者ネットワークを神奈川県全域へと拡大していく取り組みも始まった。

#### (4) 後継世代が外部の協力者とのネットワークづくりを積極的に推進し、商店街再生のための活動に取り組んでいる事例

##### ■戸塚駅東口ラピス商店会

- ◇後継世代が地域の中の大学、行政、警察署、企業を積極的に回って協力者を集め、「戸塚ファンクラブ」を立ち上げ。
- ◇そのネットワークを活用して、戸塚駅のペDESTリアンデッキで頻繁にイベントを開催し、集客している。また、2008年9月には、戸塚区内のコミュニティ情報フリーペーパー『きてみーな』を発刊。取材や広告募集から編集、発行、配布まで、すべてをファンクラブの中のメンバーで担当している（毎月50,000部発行。区内の駅や学校、公共施設、商業施設、店舗、区内を走る路線バス車内などで無料配布）。

#### (5) 行政が仲介した外部協力者との連携を、後継世代が巧みに活用して商店街再生のためのイベントを推進している事例

##### ■野毛商店街

- ◇横浜市経済観光局（当時は経済局）のコーディネートにより、野毛商店街協同組合・野毛飲食業協同組合と横浜商科大学との商店街再生事業における連携がスタート。学生との協働によるイベント開発や、特典つき商店街マップづくり、野毛地区内飲食店のオフィシャル・ガイドブックづくりなどを実施。
- ◇その連携を商店街の後継世代が活用し、街の代表的イベントである「野毛大道芸」、「野毛流し芸」を大学との共同で運営する体制を構築。街の人びとが主体となって運営するが、手の回らないところを大学（学生たち）が補うというかたちができあがる。
- ◇それによって、「野毛のイベントは地域の人に支えられた手づくり」というイメージの浸透や、多額におよんでいたイベント経費の削減を実現している。また、これまでは人手不足のためにできなかった大道芸関連イベント（大道芸をいっそう盛り上げるためのイベント）の企画・運営についても、現在では推進している（野毛大道芸スタンプラリー、過去に開催された野毛大道芸の写真展「プレイバック野毛大道芸」、開催当日の来場者を対象にした「野毛大道芸フォトコンテスト」など）。

## 5. 行政による商店街支援施策について

### (1) 商店街支援施策の理念、基本方針の確認

- 「街づくり」(ハード整備中心)の支援から「まちづくり」(ソフト創造中心)の支援へ
- 行政主導の「開発」から連携・協働をベースとした「共創」へ  
⇒「エリア・マネジメント」の発想と手法
- 商店街(商店街再生)の必要性の再確認  
⇒行政はどのような視点から商店街再生にかかわるのか  
⇒商店街はあくまで商店街(買い物の場)として再生するのか。それとも・・・

### (2) 商店街支援施策の対象

- 各所の商店街組織をベースとしない活動への支援  
⇒従来の商店街組織を対象とした支援も必要であるが、「自活志向型」の商店経営者(後継者)たちの連携による活動への支援も必要なのではないか
- さまざまな主体の連携による活動を円滑化させるための支援

### (3) その他、今後の商店街支援にあたって検討していただきたい課題

- 商店街の中に埋もれている「自活志向型」の商店経営者(後継者)の発掘と育成
- 支援メニューの情報が商店街組織の末端(とくに若い経営者や後継者)にまで行き届く仕組みの工夫。および、相談窓口の明確化と一本化
- 「商店街のよさ」を啓発する活動
- 店舗の流動化への支援
- 商店街活動への人的資源供給の支援  
⇒商店街活動を支える市民ボランティア・ネットワークの構築(専門的知識をもつ人材、何かの「プロ」である必要はない)
- 商店街支援施策の実績評価の再検討
- 個別の制度の運用方法についての工夫  
⇒(使用する側にとって)より使いやすいメニューへ

**参考. 横浜市における商店街の現状**〔横浜市経済観光局作成の資料より〕

①横浜市小売業の状況（平成19年商業統計調査より）

	事業所数	従業者数 (人)	年間商品販売額 (百万円)	売場面積 (㎡)	人口 (人)	トンプソン指数
実数	20,398	182,313	3,719,410	2,881,304	3,627,420	0.97
順位(※)	3位	3位	3位	3位	2位	16位

※「順位」は政令市（東京特別区を含む）での順位。

※トンプソン指数：1より小さい場合は、当該都市外へ購買力が流出していることを示す。

②横浜市内商店街数（横浜市商店街総連合会会員商店街数）の推移

	1991年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
商店街数	422	346	336	329	317	306
店舗数	19,307	13,817	13,388	13,062	12,691	12,356

③規模別商店街数

30店舗以下	31～50店舗	51～100店舗	101店舗以上	合計
160 (52.3%)	71 (23.2%)	58 (18.9%)	17 (5.6%)	306

④商店街内店舗の経営者居住地（「経営実態調査」平成21年10月～22年2月実施・回答数8,332）

店舗と同じ建物に居住	地元に居住	町内に居住	その他地域に居住	無回答
27.0%	14.2%	17.2%	40.2%	1.4%

⑤商店街活動の必要性（「経営実態調査」平成21年10月～22年2月実施・回答数8,332）

大いに必要	必要	どちらでもよい	あまり必要ない	必要ない	その他	無回答
16.2%	43.0%	19.6%	8.5%	4.0%	1.8%	7.0%

⑥商店街活動への会員の参加状況（「商店街実態調査」平成21年10月～22年2月実施・回答数272）

全会員が参加	会員の輪番制	役員または 限られた会員のみ参加	わからない	無回答
20.6%	3.3%	70.6%	1.5%	4.0%

⑦商店街活動への参加状況（「経営実態調査」平成21年10月～22年2月実施・回答数8,332）

率先して参加	参加している	あまり参加していない	参加していない	その他	無回答
8.3%	30.9%	29.9%	23.9%	2.0%	5.1%

※⑦商店街活動への不参加の理由（複数回答・回答数4,483）

参加する 時間がない	参加したくても 人手がない	参加しても 売上にならない	参加できる 内容でない	他の人が十分に やってくれる	その他	無回答
48.2%	23.2%	12.9%	11.6%	8.0%	7.9%	3.6%

⑧経営者年齢（「経営実態調査」平成21年10月～22年2月実施・回答数8,332）

20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
3.4%	11.6%	16.3%	21.4%	28.8%	17.0%	1.5%

⑨後継者の有無の状況（「経営実態調査」平成21年10月～22年2月実施・回答数8,332）

後継者がいる	後継者がいない	わからない	無回答
29.8%	35.6%	30.7%	3.9%

※⑨後継者がいない店舗の今後について（複数回答・回答数2,966）

自分の代で 店を閉める予定	他人に譲りたい	他人に貸したい	専門機関に 相談したい	その他	無回答
62.8%	8.3%	7.5%	2.9%	10.5%	12.2%

## 補足資料. 野毛商店街と横浜商科大学の連携による取り組み

### ■出会いのきっかけ

⇒2004年に開催された本学学生の企画によるイベント、「野毛サプライズ！横浜・商店街イベントプランコンテスト」

### ■野毛の街おこしイベントの企画・運営への協力

- ◇2005年10月／野毛流し芸 2005
- ◇2006年4月／第31回野毛大道芸
- ◇2006年7月／野毛流し芸 2006
- ◇2006年7月／野毛大道芸 2006 夏の陣
- ◇2006年11月／第32回野毛大道芸
- ◇2007年4月／第33回野毛大道芸
- ◇2007年7月／野毛流し芸 2007 夏
- ◇2007年7月／野毛大道芸 2007 夏の陣
- ◇2007年9月／野毛大道芸 2007 オータムフェスティバル
- ◇2007年10月／野毛流し芸 2007 秋
- ◇2008年4月／第34回野毛大道芸プレイイベント
- ◇2008年4月／第34回野毛大道芸
- ◇2008年7月／野毛大道芸 2008 夏の陣！宵の口から
- ◇2008年10月／野毛大道芸 2008 オータムフェスティバル
- ◇2009年4月／第35回野毛大道芸プレイイベント
- ◇2009年4月／第35回野毛大道芸
- ◇2009年10月／野毛大道芸 2009 オータムフェスティバル
- ◇2010年4月／野毛大道芸・伊藤多喜雄スペシャルライブ
- ◇2010年4月／第36回野毛大道芸
- ◇2010年6月／ツイスターズ 2010 in 横浜
- ◇2010年10月／野毛大道芸 2010 オータムフェスティバル
- ◇2010年10月／野毛柳通り流し芸

### ■本学学生が主体となって企画もしくは運営した新規の取り組み

- ◇2006年11月／「野毛・招福まっぷ」の制作
- ◇2007年4月／「野毛大道芸弁当」のラベル制作（運営スタッフ用。非売品）
- ◇2007年7月・9月／「野毛大道芸・下町スタンプラリー」企画
- ◇2007年7月～08年4月／「野毛大道芸マスコットキャラクターの愛称募集」企画
- ◇2008年2月／販売用・野毛大道芸Tシャツのデザイン案制作（提案のみ。製作・販売には至らず）
- ◇2008年3月／野毛大道芸フラッグの制作
- ◇2008年4月／「プレイバック野毛大道芸」（写真展）の企画・運営
- ◇2008年4月／野毛大道芸・顔抜き看板の制作
- ◇2008年4月／「第34回野毛大道芸フォトコンテスト」の企画・運営
- ◇2008年6月／「開けばわかる 野毛ワールド～野毛飲食業協同組合オフィシャル・ガイドブック～」の制作
- ◇2010年4月／「第36回野毛大道芸フォトコンテスト」の企画・運営、および同イベント専用ウェブサイトの企画・制作・管理運営
- ◇2010年10月／野毛大道芸 APEC 横浜開催記念イベント「APEC スタンプ&クイズラリー」企画
- ◇2010年10月／野毛大道芸 APEC 横浜開催記念イベント「APEC のウェルカム・フラッグをみんなでかこう！」企画



■野毛商店街の支援・協力による横浜商科大学での授業プログラム

- ◇2007年4～7月／学生たちによる『大道芸の街』というイメージを街全体で表現する具体的方法』についての企画コンペ  
⇒このコンペの中から、上述の「野毛大道芸フラッグ」、「顔抜き看板」、「野毛大道芸フォトコンテスト」のアイデアが出てきた。
- ◇2008年4～7月／『野毛らしい大道芸』を実現するための具体策』についての企画コンペ
- ◇2010年4～7月／『野毛大道芸イベント』に対する新たな提案』についての企画コンペ

■野毛地区街づくり会・横浜商科大学の共催による学生と一般市民のための公開講座「野毛まちなかキャンパス～横浜・野毛の商いと文化～」

- ◇2007年度より、毎年後期（10月～1月）に実施

# 商店街の活力低下

## 私の処方箋

### 活性化への提言

2

佐々 徹



さっさ・とおる 1965年横浜生まれ。横浜市立大学大学院経営学  
研究科博士課程単位取得。横浜商科  
大学専任講師を経て同大助教授。専  
門は経営後継者および起業家育成  
論、スモール・ビジネス経営論。横  
浜商工会議所関内・関外TMO幹事  
会幹事長。横浜市在住。38歳。

某商店街の店主に、その店のこだわりの品を前面に出してPRするようアドバイスしていたときのことである。

彼は「この品を自分の店だけがPRすると、二軒先にある(同種の商品を扱う)店がダメージを受けてしまう」といって、それをちゅうちょしていた。その店の店主に、彼は子供のころからかわいがってもらってきたそうである。私は、こうした温かい気持ちのつながりが商店街の重要な資産になると考えている。

某商店街の店主に、その店のこだわりの品を前面に出してPRするようアドバイスしていたときのことである。彼は「この品を自分の店だけがPRすると、二軒先にある(同種の商品を扱う)店がダメージを受けてしまう」といって、それをちゅうちょしていた。その店の店主に、彼は子供のころからかわいがってもらってきたそうである。私は、こうした温かい気持ちのつながりが商店街の重要な資産になると考えている。

# 地域社会と問題を共有

数年、横浜市内のいくつかの商店街を調査のために回ったことがある。その際、ある商店街の理事長は、「通いの店主が多くなったことが商店街の活力低下を生んでいる」と嘆いていた。また、別の商店街の理事長は「商売と

生活の場が一体であることが商店街の強みであった」と述べていた。

店主の特技を生かしてすべて手作りのイベントを行っており、低コストでも一定の集客効果を挙げている。互いのことを知り抜いた仲間だからこそできるという。

また、別の商店街では、店主たちの多くが同じ小・中学校の卒業生であるため、商店街内の問題はかりでなく地域の問題も共有しやすいという。これも活力ある商店街の一つである。

存続・発展の道として地域に密着した商店街を目指すのであれば、まず店主自身が地域社会とのかわりを深め、地域の問題を共有すべきである。そして、地域社会をベースにした温かい気持ちのつながりを取り戻すことが大切である。

## 「気持ちのつながりが重要な資産に」

# 私の処方箋

## 活性化への提言

▶ 23

横浜商科大 教授 佐々 徹



さっさ・とおる 1965年横浜市生まれ。横浜市立大学大学院経営学研究科博士課程単位取得。横浜商科大学教授。専門は経営後継者および起業家育成論、スモール・ビジネス経営論。横浜商工会議所関内・関外TMO幹事会幹事長。横浜市在住。

# 熟 営 経 手 若 街 商 店 区 緑

横浜市緑区では、区地域振興課の主導で「緑区商店街若手経営塾」という組織をスタートさせた。これは、区内商店街で家業に励む後継者たちが集まり、店づくりや品ぞろえなどの勉強をしたり、地域貢献、町づくりについて議論する場である。入・退会は自由で、「地元で頑張っている」という意欲ある若い人々の集まりとなっている。そして、活動三年目の今年は、具体的な行動を起こそうというところまで意識が高まってきた。

「既存の組織を超えたネットワーク」

# 行政は活動への支援を

横浜市緑区では、区地域振興課の主導で「緑区商店街若手経営塾」という組織をスタートさせた。これは、区内商店街で家業に励む後継者たちが集まり、店づくりや品ぞろえなどの勉強をしたり、地域貢献、町づくりについて議論する場である。入・退会は自由で、「地元で頑張っている」という意欲ある若い人々の集まりとなっている。そして、活動三年目の今年は、具体的な行動を起こそうというところまで意識が高まってきた。

真剣に取り組む「小さくても輝いている店」が、かなりの商店街の中にある。問題は、

きない状態になっていることにある。このような状況の中で、若

(民間非営利団体)の活動が重視され、「協働」という言葉が地域づくりのキーワードとなっている。この協働のネットワークは、まさに「できる(やりたい)人ネットワーク」である。こうしたネットワークを、地域商業の分野でも構築していくことが必要である。

そうした商店や、その経営者・後継者たちが「できない人(店)」や「やりたいくない人(店)」も多くいる既存の商店街組織を飛び越えた、いわゆる「できる(やりたい)人ネットワーク」である。最近、市民ボランティアやNPO

「できる人ネットワーク」による協働が可能となるよう、そしてもっと盛んになるよう、支援メニューの整備を期待したい。

# 商学連携

## 私の処方箋

活性化への提言

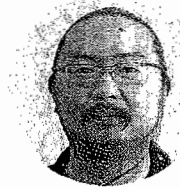
46

横浜商科大  
教授 佐々 徹

大学や専門学校の人材やノウハウを商店街の事業活動に活用する動きが、「商学連携」と称して始まっているが、実際に携わってきた経験を通じて二つの課題を指摘したい。

第一は、商店街が自らの問題を解決するのに最もふさわしい人材やノウハウを有する大学・専門学校と巡り会える仕組みを構築することである。現状では、ニーズに応じた自在なマッチングを生み出すような場や仕組みが作られていない。

そして第二は、それぞれに独自の強みを持つ複数の大学・専門学校がタッグを組んで、専門学校のタッグを組んで、



さっさ・とおる 1965年横浜生まれ。横浜市立大学大学院経営学研究科博士課程単位取得。横浜商科大学教授。専門は経営後継者および起業家育成論、スモール・ビジネス経営論。横浜商工会議所関内・関外TMO幹事会幹事長。横浜市在住。

商店街と連携できる仕組みを構築することである。商店街が抱える問題の解決には、多分野の知識やノウハウが求められるため、このような「商

# 直接交流通じ機能強化

・学・学連携」がしばしば必要となる。現在、横浜市の野毛商店街協同組合・野毛飲食業協同組合と横浜商科大学が、市経済局の協力を得て、これら二つ

の課題を見据えた商学連携のイベントのプランを大学生などから公募してコンテストを開催し、優勝したプランを参加学生らとともに実行するという事業である。また、この事業全体のコーディネートは横浜商科大学が

担当している。しかし、優勝したのは横浜国立大学であり、横国大の学生たちがイベント・プラン実行の中心的役割を果たしている。さらに、彼らが企画したイベントの一つは、野毛地区で暮らす人々の手による巨大壁画の作製であるが、その壁画作製は横浜デジタルアーツ専門学校の指導によって進行している。こうした「学・学連携」が、この事業を支えている。

今後、次代の商学連携モデルの構築に向けて、商店街とさまざまな大学・専門学校とのマッチングの仕組み作りや、商店街の問題を「学・学連携」によって解決していくための仕組み作りに関して、各所で多様な試みが推進されていくことを期待したい。

# 「求められる人材、知識、ノウハウ」

# 私の処方箋

活性化への提言

▶ 36

## 後継者問題

横浜商科大  
教授 佐々 徹



さっさ・とおる 1965年横浜市生まれ。横浜市立大学大学院経営学研究所博士課程単位取得。横浜商科大学教授。専門は経営後継者および起業家育成論、スモール・ビジネス経営論。横浜商工会議所関内・関外TMO幹事会幹事長。横浜市在住。

昨年の夏、横浜市内の中小企業経営者に対して、現在の経営課題や今後の事業展開に対する考え方をインタビューした。数人の経営者に協力していただいたが、その中で「中小企業の経営において、後継者問題が重要な課題になってきている」という声が聞かれた。

経営者への承継を迎える時期に達したからである。それから約二十年が経過し、今度はこうした企業において二代目から三代目への承

となっていたころ、横浜市内の中小製造企業二百七十五社に対して、この問題に関するアンケートを実施した。調査の結果、内教育の充実度と、現経営者の事業展開に対する意欲が高いということが分かった。後継者を育成するには人事管理

## 語り継ぐ「経営の核」を

と」で、有隣堂相談役の篠崎孝子氏は、「創業者は立ち上げて精いっぱい。その創業者の信念を企業理念にまとめ、定着させるのが二代目経営者の仕事」という。的を射た指摘である。強力なパワーと信念で企業を立ち上げた創業者の後姿をリアルタイムで見ている二代目経営者こそが、語り継がれるべきその企業の精神を明確化しておかなければならない。

中小企業の後継者問題は、一九八〇年代の後半から九〇年代初めにかけて非常に注目を集めた。日本の中小企業の中でかなりのボリュームを占める高度経済成長期に創業した企業が、創業者から二代目

継を迎えるに至った。そうした状況を踏まえ、二代目経営者の方々へのメッセージをつづりたい。

九〇年代の初め、後継者問題が中小企業経営のトピック

その結果、それができている企業は人事管理制度や企業

の目的は、後継者をしっかりととした基準で選考し、育成している企業の特徴を把握することであった。

その結果、それができている企業は人事管理制度や企業

制度や企業内教育が充実していることばかりではなく、現経営者が意欲的に事業に取り組み、その積極的な姿勢を後継者に示していることも重要なのである。

創業者の後姿の中から経営の核として語り継がなければならぬものを導出することが、二代目経営者には求められている。

## 「2代目は理念定着させるのが仕事」

Presented by Noge Street Performance Festival Executive Committee Office

# 野毛大道芸

in 商大オープンキャンパス

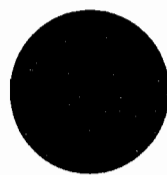
私たち商大の学生が企画・運営に協力している「野毛大道芸」をこの機会にぜひご覧ください。  
佐々ゼミナール一同より



Guest Performer

桔梗ブラザーズ

★野毛大道芸のスーパースター、桔梗ブラザーズ。  
世界トップレベルのジャグリング・パフォーマンスをお楽しみください♪



1st Stage / 12:25 -- 12:55

2nd Stage / 13:35 -- 14:05

8月22日(Sun)  
つるみキャンパス  
中庭ステージにて  
※雨天時は531教室

キャンパスツアーのあとは  
野毛大道芸のステージへ。  
お見逃しなく!

★桔梗ブラザーズ  
PROFILE

- ♪ 兄・桔梗 篤：1988.4.4生まれ。弟・桔梗 崇：1990.9.8生まれ。
- ♪ 横浜出身、横浜在住。
- ♪ 2000年秋、高校の文化祭で初めて見たステージジャグリングのショーに深く衝撃を受けた2人は、ジャグリングを始める。その後、2003年にはジャグリングの国内大会で優勝。2005年には国際大会のチーム部門で日本人初の決勝進出を果たし、銀賞を獲得する。「真のジャグリング」というものをもっと日本中のみんなに知ってほしい!という目標で、新時代ジャグリングパフォーマンスを全国各地で行っている。
- ♪ 受賞歴
  - ・ジャグリング国内大会 チーム部門 3大会 ゴールドメダル
  - ・ジャグリング世界大会 チーム部門 3大会 シルバーメダル
  - ・ジャグリング世界大会 ジュニア部門 ゴールドメダル (崇)
- ♪ 国内・海外TV、および舞台など出演多数。

オフィシャル・ウェブサイト  
[<http://www.kikyo-brothers.com>] より

企画・運営 / 横浜商科大学 佐々ゼミナール 協力 / 野毛大道芸実行委員会



高校生のみなさん  
保護者の方々へ

## 「大道芸のまち」野毛と横浜商科大学

大学と企業が共同で製品やサービス、技術の開発などを行う「産学連携」、大学と商店街等が共同で街おこし活動や街づくり事業の企画・運営を進める「商学連携」が、横浜でもさかんになってきました。商学部を擁する本学は10年ほど前より商学連携事業に本格的に取り組んでおり、現在では横浜市内で先端を行く大学の1つとなっています。

そして、本学が推進しているいくつかの商学連携事業の中でも、行政やマスコミ、他大学などから特に注目されているのが、横浜を代表する繁華街である野毛商店街（横浜市中区）との連携事業です。

昨今では、横浜ばかりでなく日本各地で商店街と地元の大学による商学連携事業が推進されていますが、行政や商工会議所が仕掛けて開始されたものや、強力なリーダーのいる商店街が地元の大学に働きかけて連携が始まったものがほとんどです。しかし、本学と野毛商店街との連携事業は学生たちが企画を練り、それを商店街に投げかけて実現したものであり、全国的に見ても稀な事例となっています。そのため、当初よりマスコミや行政の注目を集めておりました。

はじまりは？

今から6年前（2004年）のことです。学生が街に出て実践的な体験をする場づくりを企画しようという、本学の学生有志による活動が始まりました。そして、彼らが考え出した企画の中に、いろいろな大学の学生たちから商店街イベントのプランを募ってコンテストを行い、それを商店街の方々に審査していただき、選ばれたプランを実際にその商店街で実施させてもらうというものがありました。この企画をみんなで進めようということになり、行政や商工会議所にも働きかけて引き受けてくれる商店街を探したのですが、その時に手を挙げてくださったのが野毛商店街であったのです。

このコンテストは市内や都内の10大学の学生たちによる12チームが参加して盛大に行われ、その模様は新聞各紙ばかりでなく、テレビのニュースでも報道されています。残念なことに、商店街から選ばれたのは横浜国立大学の学生チームのプランでしたが、本学の学生たちは野毛商店街の方々と何度も会議を重ねながら、コンテストの企画の段階から選ばれたイベントプランの実現化の過程、イベント開催期間中の運営までをすべて見事に取り仕切り、商店街の方々に非常に高い評価をいただきました。

ホップ！

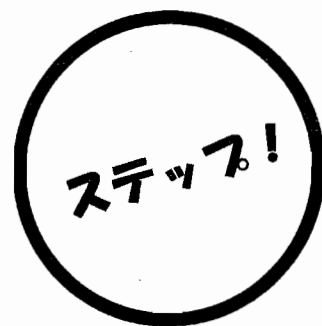
かくして、野毛商店街と本学学生たちとの交流が始まり、それは同商店街と本学との本格的な商学連携事業へと発展していきます。その最初のステップは、野毛地区の代表的なイベントである「野毛大道芸」の共同運営でした。

「野毛大道芸」は野毛の街おこしを目的に、地元の人たちの努力によって25年にわたり続いているもので、横浜市での主要な観光イベントにも数えられており、2日間の開催で40万人以上を集客するビッグ・イベントです。現在、これ

## 交流のあゆみ -- Since 2004 --

は野毛地区の商店、飲食店、町内会の方々、本学の学生たちと教員、市内の市民ボランティア・グループの協働によって企画・運営されています。ちなみに、今年の4月に開催された「第36回・野毛大道芸」の運営には本学の6つのゼミや留学生会、文化系クラブの学生たちが参加し、2日間で100名を超える学生がスタッフを務めました。

野毛大道芸の共同運営をする中で、本学の学生たちは商店街の人びとに様々な提案をしてきました。それらの中には実現に至ったものも多々あります。例えば、大道芸を観るために訪れた人びとを野毛の店に引き込むことを目的とした特典つき店舗紹介マップ「野毛・招福まっぷ」（2006年発行）。これは学生たちが企画、取材、デザインをすべて担当し、5万部つくられました（無料配布）。実際に、「このマップを持って初めて来た客が、そののち常連になった」という店もあったそうです。



さらには、2007年の夏と秋の野毛大道芸の際、子供連れで大道芸に訪れた人びとに向けて行われた「下町スタンプラリー」（大道芸の各ステージをめぐるスタンプラリー）、観光客の記念撮影用に作成した「大道芸顔抜き看板」（丸く切り抜かれた穴から顔を出して記念撮影をする看板）、普段の野毛に訪れた人びとにも「大道芸のまち」であることをアピールできるよう、商店街の通りに飾るための「野毛大道芸フラッグ」、「第34回・野毛大道芸」（2008年）および今年の「第36回・野毛大道芸」で一般来場者向けに実施した「野毛大道芸フォトコンテスト」なども、本学の学生たちが企画・提案して実現に至ったものです。

商学連携事業の新たなステップは、2007年の後期から始まった「野毛まちなかキャンパス」です。これは野毛の街なかの施設（横浜にぎわい座、横浜市中心図書館、野毛地区センター、成田山横浜別院等）を教室として使い、野毛にゆかりのある人びと（商店主、郷土史家、作家、アーティスト等）が野毛にちなんだテーマで講義を行うというもので、毎年、本学学生（1～4年生）と一般社会人の方々がそれぞれ20名程度受講しています。



これは後期を通して開講される正式な大学の授業であり、もちろん本学の学生たちは単位を修得することができます。なお、この試みは商学連携事業の先駆的な事例として各方面から高く評価されており、これまでに新聞やテレビで何度も報道されてきました。

6年前、本学の学生たちが蒔いた小さな種が、現在では様々な人びとからの注目を集める大きな木へと成長しました。本学と野毛商店街の取り組みは、商学連携事業の最も理想的なカタチであると、私たちは自負しています。





## 野毛の街との交流・連携に 参加している学生たちより

野毛商店街との連携の中では現在、私たち学生は野毛大道芸の企画・運営を中心に担当しています。具体的には、企画段階での街の人びととの協議、前日までの準備、そして大道芸当日のステージ設営のサポート、出演するパフォーマーの方々との打ち合わせ（出演時間の確認、パフォーマーからの要請に基づく各事項の調整等）、マネジャーとしての仕事（ステージまでの往復の案内、投げ銭の回収や機材運搬の手伝い等）、演技中の観客誘導や交通整理を行っています。また、それらを通じて、ステージのつくり方やイベントの運営方法、お客様にもっと楽しんでいただくためのアイデアなどを考え、野毛の街の人びとに提案することも行っています。

こうした活動をしている中で、パフォーマーの方々や、野毛の街の人びとと交流を深めることができました。今では、街の人びととプライベートでも接するようになり、お会いするたびに野毛大道芸をもっとよくしていくためにはどうすればよいかについて話しあったりしています。

野毛大道芸の企画・運営に携わることを通して、私たちは実際にイベントを組み立てていく過程や、各個人が自分に与えられた役割を責任を持って果たすことの大切さを学習しました。また、このような活動を継続することにより、学生同士だけではなく、街の人びとやパフォーマーの方々、お越しになるお客様とも交流する場ができ、学生一人ひとりが自らのコミュニケーション能力を高めることができます。そしてなによりも、私たち自身が楽しみながら取り組んでいるので、積極性や自主性など、社会人になるに向けて必要なことも身につけることができました。

このように、大学のキャンパスの中ではできない様々な体験をすることで、自分の視野や知識が広がり、社会的スキルが高まっていることを実感しています。興味を持たれた方は、ぜひ一度、野毛大道芸にお越しください♪



野毛の街が  
キャンパスです！

統一テーマは、  
「横浜・野毛の商いと文化」！

野毛の街や歴史に詳しい専門家、  
野毛の街で生まれ育った人たち、  
野毛で様々な活動をしている人たち、  
新しい野毛を創ろうとしている人たち、  
が講師です！

野

毛

ま

ち

な

か

キャンパス

主催／野毛地区街づくり会  
横浜商科大学

開講期間／2010年10月6日～2011年1月23日

毎週水曜日18：00～19：30（全14回）

▼第6週（11月13日・荒天時は11月20日）は  
土曜日13：30～16：30

▼第10週（12月14日）は火曜日18：00～19：30

▼第14週（1月23日）は日曜日18：00～21：00

社会人受講者も大歓迎！  
学生たちと社会人の方々が出会い、  
交流を深める場にしたいと  
考えています。

※ご希望の講座だけを選んで受講することもできます。開講日の1週間前までにお申込みください。

野毛まちなかキャンパスは、野毛地区街づくり会と横浜商科大学との協働によって企画・運営される、社会人と大学生のための公開講座です。「横浜・野毛の商いと文化」を統一テーマとして2007年度より開講されていますが、2008年度からは「横浜市内大学間単位互換履修制度」の対象科目となり、市内の11大学に通う学生の方々は履修すると単位が認定される講座となりました。これを機会に、多くの方々が野毛で学び、野毛を知り、野毛のファンになってくださると幸いです。

横浜開港から150年、華やかな日本の近代史の表舞台には決して出ることのなかった庶民の街「野毛」には、横浜人の本音とそこで生きてきた事実が、そのたたくまいとともに息づいています。特に大戦後の闇市から栄枯盛衰を繰り返しつつ、今もなお次の時代に向かって挑戦を続けている街のあり様と人びとの営みは、決して教科書にはなりません、そのまま活きた教材となることでしょう。この講座は一般教養としての学びではなく、それぞれに独り立ちして生きていくための「実学」としての機会になると思います。そのため、座学にとどまることなく、街を歩き、街の人びととも多く触れあうことができるようなカリキュラムとなっています。ぜひ、受身ではなく、主体的に講座にご参加ください。

私たちは、これまでの常識を打ち破る新たな学び舎を街の中に構築するため、各界の専門家のご助力も得て準備を重ねてまいりました。世代や立場を越え、互いの経験や感性を分かちあえる、今までどこにもなかったような学びの場を実現するために、そして、自身の啓発とともに、若い世代への思いを託す機会として、ご応募くださるようお願い申し上げます。

## 受講対象および定員

■下記の方々の受講をお待ちしております。

◇18歳以上の社会人の方々

◇大学生・大学院生・専門学校生の方々

■各回の定員は25名で、先着順に受け付けます。受講を希望する講座の開講日の1週間前までにお申込みください。  
なお、定員に余裕のある場合は当日受付もいたします。

## 受講料

■1講座1,000円。全講座(10月6日～1月23日。全14回)を一括でお申込みの場合は10,000円となります。

なお、最終週(1月23日)の「野毛のもてなしと名物を体験する」は別途、交流会費をいただきます。あらかじめご了承ください。

■受講料は、受講日当日に受付にてお支払いください。なお、全講座を一括でお申込みの場合は、第1週(10月6日)の受講の際にお支払いください。

※学生の方々(大学の授業として履修される方々を除く)の受講料につきましては、特別優待制度がありますので下記の申込み先へお問い合わせください。なお受講日当日、受付にて学生証をご提示ください。

■「横浜市内大学間単位互換履修制度」参加大学に在籍する学生の方々は、履修すると単位(2単位)を修得できます。履修申請は「横浜市内大学間単位互換履修生募集要項」にもとづき、ご自身の大学で行ってください。なお、大学の授業として履修される方々は、受講料および最終週の交流会費を支払う必要はございません。

## お申込み方法および申込みにあたっての注意

■申込み票に必要事項をご記入のうえ、下記の申込み先までファックスもしくは郵便でお送りください。

■受講を希望する講座の開講日の1週間前までに申込み票をお送りください。

■災害や交通機関のトラブル、講師の急病等の場合には休講になることがございます。あらかじめご了承ください。なお、その際には可能な限りご連絡申し上げます。

■ご記入いただきました個人情報につきましては十分に注意を払って管理し、講座運営のためにのみ使用いたします。ただし、横浜商科大学主催の「まちなかキャンパス」のご案内には使用させていただく場合がございます。

## お申込み先および問い合わせ先

■野毛地区街づくり会事務局 担当：田中

◇住所 〒231-0065 横浜市中区宮川町1-14

◇電話 045-241-4500

※電話での受付は、月～金曜日の10:00～16:00とさせていただきます。ご了承ください。

◇FAX 045-241-5014

## お申込み票 FAX 045-241-5014

■この面を切り取って、ファックスもしくは郵便でお送りください。

氏名	(ふりがな)	性別	男性 女性
住所	〒		
電話		FAX	
Eメール			
ご職業	<input type="checkbox"/> をぬりつぶしてください。 <input type="checkbox"/> 会社員 <input type="checkbox"/> 公務員 <input type="checkbox"/> 教員 <input type="checkbox"/> 自営業 <input type="checkbox"/> 大学生・大学院生・専門学校生 <input type="checkbox"/> その他		
年齢	<input type="checkbox"/> をぬりつぶしてください。 <input type="checkbox"/> 10代 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代以上		
ご希望の講座	<input type="checkbox"/> をぬりつぶしてください。 <input type="checkbox"/> 全講座(第1週～第14週) <input type="checkbox"/> 第1週(10月6日) <input type="checkbox"/> 第2週(10月13日) <input type="checkbox"/> 第3週(10月20日) <input type="checkbox"/> 第4週(10月27日) <input type="checkbox"/> 第5週(11月10日) <input type="checkbox"/> 第6週(11月13日) <input type="checkbox"/> 第7週(11月24日) <input type="checkbox"/> 第8週(12月1日) <input type="checkbox"/> 第9週(12月8日) <input type="checkbox"/> 第10週(12月14日) <input type="checkbox"/> 第11週(12月22日) <input type="checkbox"/> 第12週(1月12日) <input type="checkbox"/> 第13週(1月19日) <input type="checkbox"/> 第14週(1月23日)		
【ご注意】第6週(11月13日)は荒天の場合、11月20日になります。			

## 本 講 座 の 趣 旨

野毛地区はかつて横浜の「3大商店街」のひとつといわれ、横浜商業の中心地でした。現在は飲食店街になり、物販店の数は減りましたが、500を超える店（飲食店を含む）が集積しており、横浜を代表する繁華街としての地位を維持しています。また、そうした華やかな歴史の中で、大衆芸能をはじめとする様々な文化を育んできた街です。

受講される皆さまに、横浜を代表する街のひとつを深く理解していただくこと、街（ないしは地域）への愛着や街づくり活動に対する関心を高めていただくことを意図した講座です。

## 講 座 の ポ イ ン ト

- すべての講座が、実際に野毛地区のまちなかで行われます。街の実際を目で見ながら、肌で感じながら受講することができます。
- 講師は、野毛の街や歴史に詳しい専門家、野毛で生まれ育った人びと、野毛地区で様々な活動をしている人びとが担当します。
- 野毛地区のガイド付きツアー、横浜における演芸の拠点「横浜にぎわい座」のバックステージツアー、「野毛大道芸」に出演しているパフォーマーと直接ふれあうことのできるワークショップ、野毛を拠点にして活動している舞台芸術家の方々による芝居の鑑賞なども行い、座学だけではわからない街の実際や深い魅力を、受講される皆さまに感じとっていただけるようにします。

## プ ロ グ ラ ム

講 義 日	テーマおよび講師	会 場
■第1週 10月6日(水) 18:00~19:30	野毛周辺の町の歴史 ～隣の町はどんな町～ 【講師】西川 武臣 氏【横浜開港資料館】	成田山横浜別院
■第2週 10月13日(水) 18:00~19:30	野毛の街とジャズ ～「野毛に『ちぐさ記念館』を!」の一念で～ 【講師】遊佐 正孝 氏【ちぐさ会 会長】	野毛 Hana＊Hana
■第3週 10月20日(水) 18:00~19:30	野毛の街と大衆芸能 ～なぜここに、にぎわい座?～ 【講師】布目 英一 氏【横浜にぎわい座 企画コーディネーター】	横浜市中央図書館
■第4週 10月27日(水) 18:00~19:30	野毛あきんど座談会(1) ～この街で生まれ育って、商って～ 【講師】野毛地区内の老舗の経営者の方々 半澤 正時 氏【郷土史家】ほか	野毛地区センター
■第5週 11月10日(水) 18:00~19:30	閨市から始まった繁華街・野毛の昭和史 【講師】山岸 昭夫 氏【ヤマギシF 代表取締役】	横浜市中央図書館
■第6週 11月13日(土) 13:30~16:30	実際に野毛の街を歩いてみよう ～まちなかガイド付きツアー～ 【講師】半澤 正時 氏【郷土史家】	JR桜木町駅改札口に集合
※この回は土曜日の開講で、講義の時間帯も異なりますのでご注意ください。 ※小雨の際は予定どおり行いますが、荒天時は11月20日(土)に延期します。		
■第7週 11月24日(水) 18:00~19:30	野毛あきんど座談会(2) ～「この街で商うことの魅力」なぜ私は野毛で開業したのか～ 【講師】野毛地区内で最近開業した店舗の経営者の方々	野毛 Hana＊Hana
■第8週 12月1日(水) 18:00~19:30	人びとが生き生きと街が賑わうーその仕掛けとは? ～大道芸から30年 秘策大公開!!～ 【講師】IKUO 三橋 氏【初代野毛大道芸仕掛け人】 ムーラ 氏【パフォーマー】	横浜にぎわい座 シャレ (B2階)
■第9週 12月8日(水) 18:00~19:30	野毛の劇場たちと戦後の野毛を舞台にした劇 【講師】小柴 俊雄 氏【横浜演劇史研究家】	ルリエ横浜宮川町 3階

講義日	テーマおよび講師	会場
■第10週 12月14日(火) 18:00~19:30	横浜にぎわい座・夜のバックステージツアー ～横浜にぎわい座の舞台裏を巡る～ 【講師】森井 健太郎 氏〔横浜にぎわい座 副館長〕 ※この回は火曜日の開講となりますのでご注意ください。	横浜にぎわい座
■第11週 12月22日(水) 18:00~19:30	野毛史談 ～マクロの眼で見たミクロの歴史～ 【講師】斎藤 多喜夫 氏〔横浜都市発展記念館〕	成田山横浜別院
■第12週 1月12日(水) 18:00~19:30	大道芸を体験してみよう ～野毛大道芸ワークショップ～ 【講師】「野毛大道芸」に出演しているパフォーマー	横浜にぎわい座 シャーレ (B2階)
■第13週 1月19日(水) 18:00~19:30	ミニ・シンポジウム ～野毛の街の未来を描く～ 【登壇者】野毛地区の街づくりで活躍する後継ぎ世代の方々	ルリエ横浜宮川町 3階
■第14週 1月23日(日) 18:00~21:00	野毛のもてなしと名物を体験する ～さしき芝居の鑑賞と、野毛名物を集めた交流会～ 【案内役】藤澤 智晴 氏〔ふぐ・いわし料理「村田家」店主〕 ※この回は日曜日の開講です。なお講義終了後、交流会があります。 ※交流会にご参加の場合は別途、交流会費をいただきます(大学の授業として履修する学生の方々は無料です)。	野毛柳通り・村田家

## 会 場

### ■成田山横浜別院

◇TEL 045-231-4935 ◇西区宮崎町30 ◇<http://www.nogeyama-naritasan.jp/>

### ■野毛 Hana＊Hana

◇TEL 045-325-8123 ◇中区花咲町1-42-1 ◇<http://www.noge-hanahana.org/>

### ■横浜市中央図書館

◇TEL 045-262-0050 ◇西区老松町1 ◇<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/library/map.html#cyuou>

### ■野毛地区センター

◇TEL 045-241-4535 ◇中区野毛町3-160-4 ◇<http://www.nogechikusen.com/>

### ■横浜にぎわい座

◇TEL 045-231-2525 ◇中区野毛町3-110-1 ◇<http://www.yaf.or.jp/nigiwaiza/>

### ■ルリエ横浜宮川町

◇中区宮川町2-55 3階 ※電話はございません。

### ■村田家(野毛柳通り)

◇TEL 045-231-3619 ◇中区野毛町2-65 ◇<http://www.murataya.co.jp/>

# 野毛まちなかキャンパス 会場マップ



● 野毛山動物園

★ 横浜市中心図書館

★ 成田山横浜別院

● 本町小学校

京急線  
日ノ出町駅

★ 野毛地区センター

★ 横浜にぎわい座

野毛大通り

★ ルリエ(3階)

★ 野毛Hana\*Hana

大岡川

野毛地区

● 街づくり会館

★ 村田家

市営地下鉄線  
桜木町駅

JR線  
桜木町駅

主催/野毛地区街づくり会  
横浜商科大学